「大阪自然史フェスティバル２０２３」に参加して（報告）

報告　米道綱夫

写真　野口隆司

■開催日時　2023 年 11 月 18 日（土）/19 日（日）

■開催場所　大阪市立自然史博物館（長居公園）の 2 階の展示ブース

■スタッフ　18 日（土）午前　垣井・米道　　午後　岸田・山本・野口

19 日（日）午前　野口・小西・米道　午後　垣井・野口・米道

18 日は早朝から雨で来場者の出足は悪かった。前日に垣井さんと野口さんが「鉢ケ峯の自然を守る会」の活動を A3 または A４にまとめたホタルの観察活動、ヤマトサンショウウオの産卵状況、ツバメのねぐらの変遷など細かい資料をびっしりと展示していた。

本会の展示ブース（手前）の様子

そして工作はどんぐりの殻斗で芋虫作り、桜の木の小枝でピノキオ作りあるいはどんぐりに殻斗の帽子を被せたブローチ作り、桜の木の枝の鉛筆作りの 4 種類を用意した。これらは子供を対象にしたもので幼稚園の子供から小学校低学年の子供たちが来たが、おばちゃんの参加もあった。芋虫の工作は時間がかかる。一人大体 15 分～20 分ぐらいかかっている。殻斗の中心に錐で穴を開けるのだがこれを 10 個から 12 個作るのが大変だ。目玉は動眼を 2 個つけて殻斗の中心にちいさい枝がついているのを鼻に見立てて顔を作る子供や頬に赤い糸で髭を作る小供などそれぞれ自分なりに工夫して作っていた。鉛筆作りは小さい子に鎌を持たせて削るのは難しすぎた。肥後守などあったように思うが、ないなら次回の工作の時までに揃えておきたい。どんぐりのネックレスは女の子が主に作った。小さいヒートンをねじ込んで回すのは小さい指の子供たちの方が上手にやっていた。私たちスタッフは工作にほとんどの時間を取られ、鉢が峯の調査活動などあまりできていなかったように思う。

前日の反省で机に工作する時間帯を書いた貼り紙をして「時間が来たので工作はもうお仕舞です。」と伝えると、悲しそうな顔をする子や思わず泣いてしまう子までいると、店仕舞い？ができずうまくいかなかった。他の出典団体も同じように時間を設定していたが、時間通りにやれたかは疑問だ。多くの出展団体が工作に力を入れていた。

自然に参加体験型の催しは室内では工作、室外では長居植物園での野鳥観察や生き

物探しがあった。18 日の講演会では「深海に潜ってわかった深海生物の生き方」という私たちが体験できない世界を水先案内人の講師が仔細にわたり摩訶不思議な世界に誘ってくれた。

19 日のシンポジウムでは「OSAKA ベイエリアに、いのち輝く自然を取り戻すために」と題して夢洲を中心に生き物調査の報告や保全への手立てが話し合われた。この他にも興味ある講演会が開かれていた。私とし

ナラガシワの殻斗で芋虫づくり

てはもう少しスタッフが多ければそれぞれのスタッフが各講演会を拝聴し、その結果をスタッフ会議で披露してもらえたらもっと有意義なものになると考えている。なお大阪自然史博物館発表によると 18 日の入場者は約 8000 人、19 日約 11000 人、合計 19000 人ということでした。